

観覧料(税込)	年齢は入場時点		
一般(26歳以上)	事前購入券	1,800円	当日券2,000円
25歳以下	事前購入券	1,100円	当日券1,200円
高校生以下無料			

- ・身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳(ミライロIDも可)を提示のご本人とその介助者1名は無料、被爆者健康手帳を提示の方はご本人のみ無料
- ・25歳以下の方は生年月日が確認できるものをご提示ください

お得なペアチケット(2枚セット券) 3,400円 枚数限定

- *販売期間は3月11日(水) 10:00から4月10日(金) 23:59まで
- *美術館受付では販売いたしません

- ・事前購入券は3月11日(水) 10:00から販売開始、公式電子チケット「アソビュー!」、イープラス、ローンチケット(Lコード:00000)、チケットぴあ(Pコード:000-000)などでお買い求めいただけます
- ・事前購入券は手数料がかかる場合があります
- ・各種購入方法の詳細は美術館ホームページをご確認ください

収蔵品
コーナー

フィンセント・ファン・ゴッホ《ひまわり》



新宿駅西口より徒歩5分
〒160-8338
東京都新宿区西新宿1-26-1
050-5541-8600 (ハローダイヤル)
<https://www.sompo-museum.org/>

会期中のイベント

*内容の詳細は美術館ホームページをご確認ください

学芸員のギャラリートーク【要申込】

本展担当学芸員が展覧会の見どころや出品作品について展示室で解説します
(専用イヤホンを使用)

開催日時および申込期間:

4月24日(金) ① 14:00-14:40 ② 18:00-18:40 申込期間:3月24日(火)-3月26日(木)
5月15日(金) ① 14:00-14:40 ② 18:00-18:40 申込期間:4月15日(水)-4月17日(金)

定員:各回20名(抽選)

申込方法:web申込/美術館ホームページからご応募ください

参加費:2,000円(税込)

- ・高校生以下無料
- ・ご招待券、ご招待状、年間パスポート、割引等は適用できません

ギャラリー★で★トーク・アート【要申込】

6月8日(月) 14:00-16:00

休館日に貸し切りの美術館で、ボランティアガイドと話しをしてみませんか?

作品解説を聞くのではなく、参加者が作品を見て、感じて、思うことを話しながら楽しむ参加型の作品鑑賞会です。

定員:30名(先着順)

参加方法:web申込/4月10日(金) 10:00より美術館ホームページにて受付開始

参加費:2,000円(税込)

- ・高校生以下無料
- ・ご招待券、ご招待状、年間パスポート、割引等は適用できません

表紙作品

表 《ヴェネツィア、サン・ジョルジョ・マッジョーレ》(部分) 1895年頃 油彩/板 20.5 × 39.6 cm

ランス美術館(inv. 907.19.38) C. DEVLEESCHAUWER ©

裏 《干潮》(部分) 1884年 油彩/カンヴァス 117 × 161 cm

サン＝ロー美術館 © Musée d'art et d'histoire de Saint-Lô, Pierre-Yves Le Meur



The 50th Year of the Sompo Museum of Art

Eugène Boudin

maître de l'instantanéité



開館50周年記念

ウジェーヌ・ブーダン展

—瞬間の美学、光の探求—

主催: SOMPO美術館、朝日新聞社、テレビ朝日

特別協賛: SOMPOホールディングス 特別協力: 損保ジャパン

協力: 日本航空 後援: 在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ、新宿区

監修: ローラン・マヌーヴル 企画協力: プレゼントラスト



2026

4/11 sat. — 6/21 sun.

休館日: 月曜日(ただし5/4は開館)、5/7
開館時間: 10:00-18:00(金曜日は20:00まで)
※最終入場は閉館30分前まで

SOMPO美術館
Sompo Museum of Art



若きクロード・モネを導いた
「印象派の先駆者」、30年ぶりの回顧展



1.

開館50周年記念
ウジェーヌ・ブーダン展
 —瞬間の美学、光の探求—

「印象派の先駆者」と呼ばれる画家ウジェーヌ・ブーダン（1824–1898）の、日本では約30年ぶりとなる展覧会です。空や雲、海景、牛の群れなどを瑞々しい色彩と軽快な筆致で描き出したその作品は、故郷であるフランス北部のノルマンディーをはじめとする各地の光と大気の様子を見事にとらえています。戸外制作を重視し、移ろいゆく自然現象の「瞬間」に向き合うその態度は、若きクロード・モネ（1840–1926）を開眼させ、やがて印象派の誕生へとつながってゆくのです。

海の情景を描いた「海景画」と共に語られることの多いブーダンですが、その魅力はそれだけにとどまりません。油彩・素描・パステル・版画を中心に約100点で構成する本展では、人物や建築モチーフなどにも焦点を当てつつ、フランス近代風景画の発展に大きく寄与したブーダンの魅力を、新たな視点で問い直します。



2.

ウジェーヌ・ブーダン
 Eugène Boudin, 1824–1898

ノルマンディー地方の港町オンフルールに生まれ、青年期をル・アーヴルで過ごす。バルビゾン派たちと交流するなかで画家を志し、パリでの3年間の修行時代には、17世紀オランダの風景画や動物画に学び、以降はノルマンディー各地を制作拠点として風景画や海景画を中心に制作する。青年期のクロード・モネと共に戸外制作を行ったことは、のちの印象派誕生へとつながった。画業後半期は活動範囲を広げ、ブルターニュ、ポルドー、ヴェネツィアをはじめとする各地へ足を延ばす。表情豊かな空模様を画面に大きく取り込み、光の絶妙な変化を捉えたブーダンの作風は、カミーユ・コローやシャルル・ボードレールをして「空の王者」と言わしめた。1898年にドーヴィルで没する。

Eugène Boudin
 maître de l'instantanéité



3.

●“印象派の先駆者”ウジェーヌ・ブーダンの約30年ぶりの回顧展
 クロード・モネの師として知られるブーダン。印象派の展覧会ではいつも目にする“印象派の先駆者”が、約30年ぶりに主役となる展覧会です。

●フランスから油彩・素描・パステル・版画、約100点が来日！
 初期から晩年にいたるブーダンの画業全体を、約100点を通じてご紹介するとともに、素描やオイルスケッチによって、自然が垣間見える「瞬間」を追い続けたブーダンの制作プロセスにも迫ります。

●8つの切り口でブーダンを再考
 ブーダンと言えば、ノルマンディーの海辺を描いた「海景画」がよく知られていますが、それだけではなく、8つの切り口——「海景」「空」「風景」「建築」「動物」「人物」「素描」「版画」——を通じ、ブーダンの魅力を多角的に再考します。

●印象派誕生から150年。ブーダンの功績と革新性を再発見
 印象派誕生から150年、またブーダン生誕200年を迎えたことは、19世紀後半のフランス風景画の革新性を再検証するまたとない機会です。印象派に先駆けていち早く戸外制作による自然の臨場感をとらえようとしたブーダンの革新性を、今あらためて考えます。



4.



5.

This marks the first major exhibition in Japan in approximately 30 years of the work of Eugène Boudin (1824–1898), known as the “Precursor of Impressionism.” Boudin captured skies, clouds, seascapes, and herds of cattle with fresh colors and light, lively brushwork. His paintings brilliantly portray the light and atmosphere of various locales, including his native Normandy in northern France. Boudin placed great emphasis on working outdoors, *en plein air*, confronting the fleeting “moments” of ever-changing natural phenomena. This approach to painting opened the eyes of the young Claude Monet (1840–1926) and would eventually lead to the birth of Impressionism. While Boudin is often discussed in relation to his seascapes depicting maritime scenes, his appeal extends far beyond this genre alone. This exhibition comprises approximately 100 works, primarily oil paintings, drawings, pastels, and prints. By focusing on the figures, architecture, and other subjects Boudin depicted, the exhibition reexamines, from a fresh perspective, the appeal of this artist who made significant contributions to the development of modern French landscape painting.



6.



7.



8.



9.

1. 《ル・クロワジック》1897年 油彩/カンヴァス 50.5×74.5 cm
 アンドレ・マルロー美術館、ル・アーヴル © MuMa Le Havre / Florian Kleinfenn
2. 《空の習作》1880年頃 油彩/板 27×21.5 cm 個人蔵、ノルマンディー
3. 《ベルク、出航》1890年 油彩/カンヴァス 79×110.2 cm ランス美術館 (inv. 907.19.34)
 C. DEVLEESCHAUWER©
4. 《ドゥアルヌネ湾（フィニステール）のサンタンヌ=ラ=バリュのバルドン祭》1858年
 油彩/カンヴァス 87×146.5 cm アンドレ・マルロー美術館、ル・アーヴル
 © MuMa Le Havre / Florian Kleinfenn
5. 《傘をさす女性、ベルクの海岸》1873年頃 油彩/板 12.5×17.5 cm
 ウジェーヌ・ブーダン美術館、オンフルール Honfleur, musée Eugène-Boudin / Henri Brauner
6. 《廃墟のラッセイ城》1893年 油彩/カンヴァス 50.5×74 cm
 ブーローニュ=シュル=メール市立美術館
 © coll. Musée Boulgne-sur-Mer Ville de Boulgne-sur-Mer
7. 《トルーヴィル街道、ピュタン近郊》1860–63年 油彩/カンヴァス 57×83 cm
 ウジェーヌ・ブーダン美術館、オンフルール Honfleur, musée Eugène-Boudin / Illustria
8. 《水飲み場の牛の群れ》1880年 油彩/カンヴァス 79.3×109.6 cm
 ランス美術館 (inv. 907.19.33) C. DEVLEESCHAUWER©
9. 《トルーヴィルの海岸の貴婦人（トルーヴィルの海岸のメッテルニヒ夫人）》1863年
 水彩・鉛筆/紙 17×24.3 cm 個人蔵、ノルマンディー